国営明石海峡公園 神戸地区
あいな里山公園

みごろの花&生きもの 散策コースマップ

2025～2026

12月中旬～1月中旬

季節のおすすめ散策コース♪（ゆっくり歩いて1時間）
おてがるコース♪（ゆっくり歩いて30分）

オオムラサキ（タテハチョウ科）
冬は幼虫の姿で、エノキの木の下で落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中の突起が4対あることで、ゴマダラチョウと見分けられます。

ゴマダラチョウ（タテハチョウ科）
成虫は、黒地に白のまだら模様が特徴的な蝶。オオムラサキと同じく、エノキの木の下の落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中の突起は3対です。

ツグミ（ツグミ科）
夏になると鳴き声が聴こえなくなる（口をつぐむ）ことが名前の由来といわれていますが、実際は冬になると日本に飛んでくる冬鳥です。

ジョウビタキ（ヒタキ科）
橙色の胸に、灰色の帽子が特徴的。平地や低山の明るい林で暮らす、もっとも身近な冬鳥の一種。

白拍子棚田（とんど焼きの風景）

小野新池（カモなどの水鳥）

ヤマコウバシ（葉）（クスノキ科）
葉は枯れても枝に残り、落ちないので受験のお守りにもされています。

アキグミ(実)（グミ科）
秋に実がなるグミの一種。果実は食用になり、果実酒などに利用されます。

ヤブツバキ（ツバキ科）
ツバキには様々な種類がありますが、自生のツバキといえばヤブツバキのこと。メジロが蜜を吸いにやってくることもあります。

モチツツジ(紅葉（ツツジ科）
名前の由来は、花芽をさわると粘ることから藍那ではモチバナとも呼ばれます。冬の紅葉も美しい木です。

ソヨゴ(実)（モチノキ科）
風に葉がそよぐ音から、ソヨゴという名がついたそう。また、火であぶると葉が膨らんで音を立てて破裂することから、別名　フクラシ　とも言われます。

切通し東側の草地（ティピの風景）
中に入って遊べます！

ススキ（イネ科）
秋の草地を代表する植物。秋の七草の尾花です。藍那では、茅葺屋根の材料として利用されてきました。

ヒガンバナ(葉)（ヒガンバナ科）
花は秋の彼岸の頃に咲きますが、葉は花が枯れた後、晩秋～春先までの間見られます。そして、翌年に花が咲く頃には葉はすでに枯れています。

アオキ(実)（アオキ科）
名前の由来は、葉も枝も「あおい」木だから。街中でも、葉が斑入りの物がよく植えられます。

ナズナ（アブラナ科）
春の七草の一つ。茎からのびる果実の部分がかわいいハート型をしています。その形が三味線のバチにみえることから「ヘンヘン草」とも呼ばれます。

ヤブコウジ(実)（サクラソウ科）
別名「十両」。「千両」や「万両」と並んで、縁起物としてお正月飾りによく使われます。